



Enewill Inc. Company Profile

株式会社エネウィル／会社紹介資料

Contents

01 | About Us

04 | Culture

02 | Business

05 | Recruitment

03 | Work

その地にチカラを

発電所をつくることがゴールではなく、地域の未来を共に育てること。

その土地が持つ自然、エネルギーの価値を顕在化し、

利活用を進めることで地域の持続的成長を支える存在を目指します。

エネウィル＝エネルギー × 意志 (Will)

私たちの社名には、「持続可能な地域を作りだす」という強い想いが込められています。自治体向けに公共事業を展開する国際航業(株)の不動産子会社として事業を開始。2012年に再生可能エネルギー事業に参入して以来、全国各地で発電所の開発を推進し、地域に対して責任をもって運用する体制をつくり、安定した発電事業を展開しています。

いま、エネルギー情勢は大きな転換期を迎えています。太陽光発電が引き続きその役割を拡大する中で、地域との共存共栄がこれまで以上に求められています。蓄電池をはじめとする新しい技術の活用が進み、再生可能エネルギーの価値を高める機会も増えています。私たちはこの変化を“チャンス”と捉え、地域と共に新たな価値の創出に日々挑戦しています。

エネウィルでは、共に働く仲間の“あるべき姿”を描いた「たるは」という考え方を大切にしています。

自ら考え・行動し、他と協力し、地域の未来に貢献することに情熱を燃やす“個”が、目指す方向に共感し、同じ目的で結集し、互いを支え合いながら“チーム”として力を発揮する—これが、私たちの“働き方”です。エネルギーの未来を変え、地域の未来を創り出す。

決して容易な道のりではありませんが、私たちの想いに共感し、この挑戦にやりがいを感じてくださる仲間をお待ちしています。

エネウィルが目指すもの

地域の環境・エネルギー資源の
価値顕在化と利活用の推進

エネウィルの構成員たるは

自律

当事者意識を持ち自分で立つことは当然として、関係者との相対の中で、自分を位置付け関係を築くこと

利他

他人に全てを委ねることでも自己犠牲でもない。
相手とゴールをアラインし、互いのために汗をかくこと

情熱

熱い想いを常に発信するだけでなく、自らを動機づけて行動を起こし、他者を巻き込んでいくこと

安全

安全は企業活動の基盤。常に自身の行動がもたらす結果を予測し、事故・災害から自他の身を守ること

エネウィル＝エネルギー×意志(will)

地域が本来持つ“チカラ”を顕在化し、その地域が依って立つ「何か」にすること。自律・自走する地域を1つでも多く生み出すこと。役職員全員でこの理念を共有・議論・体现し、一人ひとりが強い意志を持って大きな“チカラ”を成し、影響力を持ち、持続可能な地域を作り出すという決意を込めています。

A large, stylized version of the Enewill logo. The word "Enewill" is rendered in a bold, black, sans-serif font. A thick, orange-yellow brushstroke underline is positioned beneath the letters, starting from the left and ending with a slight upward curve on the right.

■会社名	株式会社エネウィル(Enewill Inc.)
■本社	東京都千代田区丸の内二丁目1番1号 明治安田生命ビル10F
■設立	2006年 8月 4日
■資本金	1 億円
■代表	代表取締役社長 坂根 多加弘
■事業内容	再生可能エネルギー発電施設の開発 EPC（設計・調達・建設） O&M（運営管理）及び関連するコンサルティング 新電力事業

■許可・登録	宅地建物取引業東京都知事免許（4）第86564号 建設業東京都知事許可（特－3）第126665号 小売電気事業登録番号A0221
■関係会社等	株式会社エネウィルパワーエンジニアリング エネウィルインベストメントマネジメント株式会社 宮崎ソーラーウェイ株式会社 みよしエナジー株式会社 気仙沼グリーンエナジー株式会社 Miraiつのエナジー株式会社 鹿追未来エネルギー株式会社 和歌山御坊バイオマス発電合同会社 愛知田原バイオマス発電合同会社

拠点・アクセス

鹿追未来エネルギー株式会社

■ 北海道河東郡鹿追町東町一丁目15番地1

気仙沼グリーンエナジー株式会社

■ 宮城県気仙沼市高井40番地

みよしエナジー株式会社

■ 徳島県三好郡東みよし町屋間3025番地9

和歌山御坊バイオマス発電合同会社

■ 和歌山御坊市日高港工業用地内

📍 当社グループが保有する発電所

株式会社エネウィル本社

株式会社エネウィルパワーエンジニアリング

エネウィルインベストメントマネジメント株式会社

■ 東京都千代田区丸の内二丁目1番1号（明治安田生命ビル）

愛知田原バイオマス発電合同会社

■ 愛知県田原市 臨海工業地域内田原4区

Miraiつのエナジー株式会社

■ 宮城県児湯郡都農町川北4874番地2

宮崎ソーラーウェイ株式会社

■ 宮崎県宮崎市橘通東3丁目1番47号

2006.8 ● 国際航業株式会社の不動産を専門に扱う子会社として事業を開始

2008.1 ● 「国際ランド&ディベロップメント株式会社」に商号変更

2010.3 ● 宮崎県都農市にて、当社初の自社開発案件となる
「宮崎ソーラーウェイ都農第一発電所」を竣工

2012.3 ● 国内再生可能エネルギー発電事業に本格参入

2015.7 ● 「JAG国際エナジー株式会社」に商号変更

2016.7 ● 本社を東京都千代田区丸の内に移転

2017.8 ● 当社が開発・運営する太陽光発電所の累計出力が100MWを達成

2018.6 ● みよしエナジー株式会社を設立

2019.4 ● 気仙沼グリーンエナジー株式会社を設立

2020.1 ● 宮崎ソーラーウェイ株式会社を完全子会社化

2020.9 ● 当社が開発・運営する太陽光発電所の累計出力が200MWを達成

2021.12 ● Miraiつのエナジー株式会社を設立

2022.10 ● 「株式会社エネウィル」に商号変更

2024.9 ● 鹿追エナジー株式会社（12月に公募で社名変更：鹿追未来エネルギー株式会社）を設立

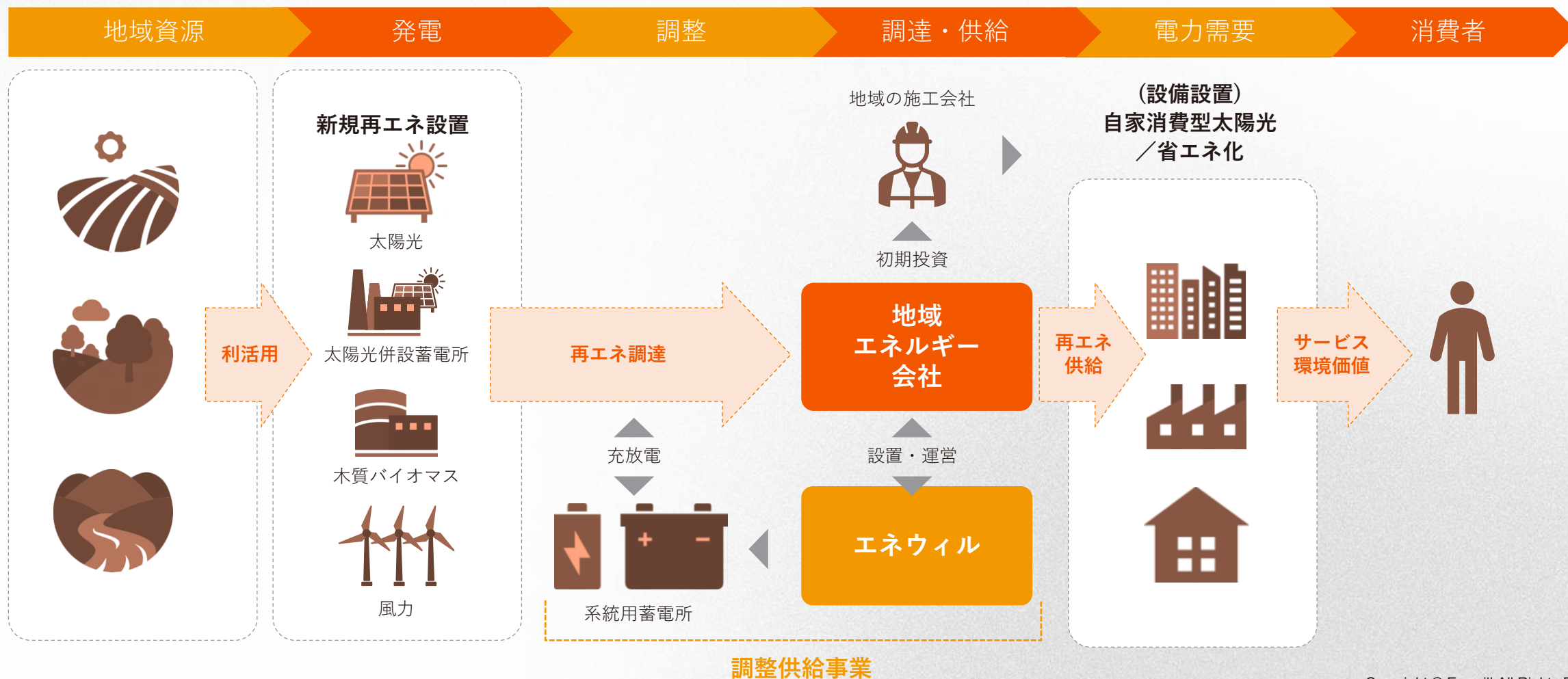
2024.11 ● 愛知県田原市にて、定格出力7.5万kWの「愛知田原バイオマス発電所」の営業運転開始

2025.8 ● 和歌山県御坊市にて、定格出力5万kWの「和歌山御坊バイオマス発電所」の営業運転開始

事業概要

地域の資源・エネルギー価値を最大限に引き出し、蓄電所の活用で持続的に高めていきます。

クリーンで災害に強く競争力のある電力を、地域エネルギー会社を通じて安定的に供給することで、地域の自律的な発展と持続可能な社会づくりに貢献してまいります。



ビジネス環境

政策の後押しにより、小規模高圧太陽光の成長と基幹電源化が進み、地域との共存共栄が重要なテーマとなっています。

こうした環境下で当社が培ってきた「高圧領域での地域向け価値提供を実現する一気通貫プラットフォーム」の強みが、まさに生きる状況にあります。

今後はパートナーとのアライアンスに加え、新たに拡大しつつある蓄電所も組み合わせ、地域が依って立つチカラを構築してまいります。

マクロ環境

- 太陽光市場のさらなる拡大と新規開発機会の高圧シフト
- 蓄電所市場の勃興と国盗り合戦過熱化
- 再エネ事業者への責任ある主体への変革要請
- 地域脱炭素文脈での再エネ導入促進政策の具体化の動き
- 地域脱炭素に注目する競合もあるが、実行はこれから

エネウィルの強み

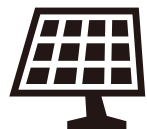
- 創業以来の地域を軸とした事業展開
- 一気通貫プラットフォーム
- 高圧領域での独自性が生む連携機会
- 自社アセットからの高位安定収益基盤

今後の方針

既存発電所の価値最大化施策により創出される資金を、開発機能強化による案件パイプラインを拡充・地産地消商流構築の重点領域に再投資し、戦略実行を加速化するとともに、電力供給の先にある地域自律化・カーボンニュートラル実現のための中長期的な事業モデルを具現化してまいります。

中計バリュードライバーへの
リソース集約

地域で目指すものの具現化



既存発電所価値最大化

- バリューアップ●OMコスト改革

資金



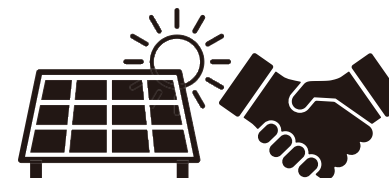
パイプライン拡充

- ソーシング内製化・自動化
- 開発プロセス整流化



地産地消商流構築

- ベースロード電源開発
- 需給調整事業立ち上げ
- RE100地域卸供給

EW強み
インフラ
ノウハウ

2035年のカーボンニュートラルの達成

- 地域自律化・CN実現の事業モデルグランドデザイン具現化
- 遊休地活用・排出権・再エネ需要家企業様との連携による地域活性化など

インフラ開発部

太陽光・蓄電の案件創出から調査・申請、顧客/設備・EPC選定、施工管理、蓄電プロジェクト統括まで一貫推進し、発電インフラの新規開発を牽引。

ベースロード事業推進部

蓄電・バイオマス両グループは、土地・案件開拓から統括、調査・関係者協議・申請、施工管理・運営、設備メーカー・EPC等の選定折衝まで一貫担当。

インフラ
オペレーション部

太陽光発電のO&M、売電、予実管理を実施。付加価値向上施策の立案・実施、設計支援、再エネ発電の開発・運転体制構築に関する協議・申請も担当。

地域開発室

新たな戦略地域の開発、地域エネルギー会社の設立、発電設備立地地域での事業拡大、地域カーボンニュートラルに資する新たな再エネ取組を主導。

地域エネルギー事業部

需給調整、電力調達と供給力確保、顧客管理、電気事業申請、戦略地域の調整供給事業を推進。地域子会社運営支援や顧客獲得、省/再エネサービス開発も担う。

財務経理部

予算策定・実行と業績/予実管理、決算・監査・税務、資本政策を統括。投資管理や資金計画・調達/運用、さらに情報/基幹システムの設計・構築・運用統制まで所管。

人事総務部

人事戦略・制度・採用・教育・賃金・福利厚生や各種委員会を所管。株主総会・取締役会運営、リスク/コンプラ、決裁・印章、広報、不動産、役員秘書等の総務法規も担う。

経営企画室

中期計画と予算策定支援、業績・目標・予実管理、経営方針と組織戦略の策定・課題解決、関係会社の計画支援など全社横断の企画統括。

内部監査室

年度監査計画の策定・実施、取締役会への報告、監査結果に基づく改善推進、監査を通じた全社横断/継続施策の立案・実施で統制と改善をリード。

Project.01

気仙沼発・
再生可能エネルギーの
取り組み

M.M

地域エネルギー事業部
マーケティンググループ

プロジェクト発足の背景

気仙沼市では、東日本大震災による甚大な津波被害をきっかけに、持続可能なまちづくりに向けた取組を震災直後から進めてきました。気仙沼グリーンエネルギーはその一環として設立され、電力小売を通じて「電力の地産地消」や「地域内経済循環」を実現し、復興と発展に貢献しています。さらに、世界的な脱炭素の流れを受け、気仙沼市は2021年に「2050年ゼロカーボンシティ」を宣言しました。現在は市の脱炭素計画の中核として、公共施設だけでなく市内の民間施設においても電力を通じた脱炭素化を進め、その実現に尽力しています。

プロジェクト概要

日本有数のカツオ・サンマの漁獲量を誇る気仙沼市は、「豊かな海は森林が育む」と信じられてきた土地柄から、古くから林業も盛んな地域です。その背景を活かし、地元企業は間伐材を利用したバイオマス発電に取り組んでいます。気仙沼グリーンエネルギーは、こうした再生可能エネルギーを調達し、環境証書と組み合わせて公共・民間を問わず電力を供給。市内の脱炭素化に貢献しています。さらに、サンマ祭りを通じて縁の深い東京都目黒区にも、気仙沼産の再エネ電力を一部供給し、地域を越えた脱炭素にも寄与しています。また、気仙沼グリーンエネルギーは株式会社エネウィルをはじめ、気仙沼市、出光興産株式会社、地元金融機関である一般財団法人気仙沼しんぎん復興支援基金の出資によって設立され、複数株主との連携のもとで事業を展開しています。

プロジェクトストーリー01

プロジェクト目標

気仙沼市の脱炭素化が気仙沼グリーンエネルギーの目標です。
電力の小売りを通じた脱炭素化だけでなく、省エネや創エネを組み合わせた提案により、ゼロカーボンシティの実現を行ってまいります。

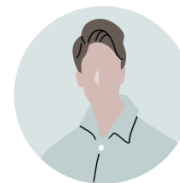
プロジェクト成果

現在、気仙沼グリーンエネルギーでは市内153契約、目黒区64契約、計217契約に電力を供給しています。2019年の設立以来、公共施設を中心に契約を拡大してきましたが、2021年冬に業界全体で問題となった卸電力取引市場（JEPX）の高騰により、調達コストが増加し、契約数を減らさざるをえない状況となりました。

しかしながら、調達電源の見直しが功を奏し、2024年度上期には経営状況、契約数ともに市場高騰以前の水準に戻り、現在では更に事業を拡大しております。

気仙沼市内の脱炭素化においては、まだ道半ばではあるものの、民間を中心に順調に契約を拡大し、ゼロカーボンシティの実現に向けて確実に歩みを進めています。

＼プロジェクトにかける想い／



地域のために、 エネルギーでできること

気仙沼グリーンエネルギーの担当として、気仙沼市に通ううちに、震災の爪痕の大きさをひどく感じるようになりました。地元の方との会話でも「街は復興しきれいになっても、震災前の賑わいは戻っていない」とよく耳にします。その中で、何とか私が力になれないかと考えるようになりました。「人がいない、お金がない」よく聞く言葉ですが、これは日本全国の地方が抱える問題だと思います。私たちの地域新電力は地域から都市部に流れるエネルギーコストを域内で循環することがコンセプトとなっております。日々の活動は大きなものではありませんが、コツコツと積み重ねる営業努力が、地域経済の活性化、脱炭素化につながると信じて取り組んでいます。

プロジェクトストーリー02

Project.02

PPAの挑戦を、現実に。
全国40発電所、
同時竣工プロジェクト。

I.M

財務経理部
(エネウィル
インベストメントマネジメント出向)

プロジェクト発足の背景

これまでの固定価格全量買取制度（FIT）による売電ではなく、民間の小売電気事業者への売電という新たな試み（PPA）として、複数の事業者からの提案を踏まえ、当社のAM機能を担う立場としてもプロジェクトへの影響や課題を検討し、枠組みづくりに関与しました。選定された事業者は投資家としても本プロジェクトに参画することとなり、その結果、当社と相手先の双方が「小売事業者」と「投資家」という二重の立場で関わる形となりました。そのため、事業への関わり方や意思決定の方法・範囲についてあらかじめ協議し、枠組みを明確に定める必要が生じました。

プロジェクト概要

本プロジェクトは、大小あわせて全国40か所の発電所で構成される大規模なポートフォリオ案件であり、補助金を申請する事業群でもあったため、1年以内にすべての発電所を竣工させる必要がありました。そのため、資金調達においても数十億円規模を各プロジェクトの資金需要に合わせて柔軟にファイナンスすることが求められました。さらに、補助金申請後には中間検査や確定検査があり、時には数千ページに及ぶ資料の作成が必要となりました。現場での開発や工事対応に加え、毎週10名以上の関係者と緊密に連携し、丁寧に進捗管理を行うことも重要な役割でした。

プロジェクトストーリー02

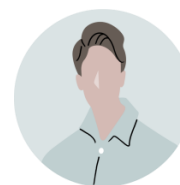
プロジェクト目標

各投資家との収益目線に関わる当初の協定を維持しながら、期限内に全ての発電所を完工するという目標で取り組みました。

プロジェクト成果

FIT制度による売電からの脱却を図り、EWとして初めてPPA契約によるスキームを構築しました。多少の発電所の脱落やトラブルはあったものの、限られた時間の中で各関係者と連携し、代替用地の確保や竣工に向けたスケジュール管理、契約変更を何度も重ねて対応。事業計画も柔軟に調整し、当初想定を大きく崩さずに、すべて補助金対象として竣工を迎えることができました。その結果、採択案件の中でも高い完成度を実現し、投資家や小売り事業者の皆様からも信頼を得るに至りました。これにより、エネウィル全体の信頼性向上に大きく貢献できたと確信しています。

プロジェクトにかける想い /



公益と収益を両立する、 “たるは”に基づく意思決定

40か所という多数のプロジェクトの一括竣工、FIT以外での太陽光発電事業への取り組み、さらには外部の投資家も交えて事業関係者も兼ねるという、これまでと異なる大掛かりな取り組みであり、EWとしても今後の新たな太陽光開発のスキームの一つとして成功事例を作りたいという想いでした。また、補助金を利用するということで公益性も加味される事業であり、アセットマネジメント部としても外部に対して、適法性や収益性なども含め、EW及び外部投資家にも公正かつ適正に判断・説明できるプロジェクトの進行・意思決定を強く意識した取り組みとなりました。

Project.03

発電を止めない ためのO&M



A.F

インフラオペレーション部

プロジェクト発足の背景

初期の太陽光発電は「設置すれば勝手に発電する」というイメージで普及が進みました。しかし実際にはモジュールの劣化、パワコンの故障、草木の陰、パネルの汚れなど、日々の変化で発電効率は大きく左右されます。日本では、2012年にFIT制度が始まり、多くの太陽光発電所が「20年間売電を続ける」ことを前提に建設されました。このため、「作る」だけでなく「守る」専門の体制＝O&Mをつくり、その活動を開始しました。

プロジェクト概要

太陽光発電所の企画から開発、運営・管理まで全ての過程を一貫して行います。全国で200件以上に及ぶ発電所の開発・維持・管理をわずか10名程度の精鋭メンバーで担っています。

現場では、太陽光システムが安全・安定・効率的に発電ができるよう、点検・清掃・修繕、そして発電システム評価を行っています。特に、長期期間の運用（20～30年）を前提とする太陽光発電では、メンテナンスが極めて重要な役割を果たします。

太陽光発電のO&M業務は、「発電をとめない」「事故を起こさない」という使命のもと日々業務に取り組んでおります。

プロジェクトストーリー03

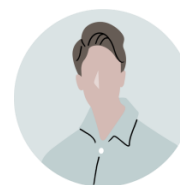
プロジェクト目標

太陽光発電O&Mの目標は、単純に点検や修理することではありません。本質的な目的は、「太陽光発電の発電収益と資産価値を最大限に保ち続ける」ことです。そのために、①発電量の最大化・維持②設備の長寿命化③停止時間の最小化④安全管理の徹底⑤お客様への透明性・信頼性の提供⑥最新制度や技術動向を踏まえた追加的設備投資の検討と実施などを目標としています。

プロジェクト成果

私たちO&Mの仕事は、太陽の力を安定したエネルギーに変える「つなぎ手」だと考えます。未来に電気を届ける・・・一見地味に見えるかもしれませんが、実は社会に欠かせない「縁の下の力持ち」としての重要な役割を担っています。太陽が毎日昇るように、私たちも毎日、発電を止めないために全力を尽くしています。そして今後は、AIやドローンといった最新技術と、現場で培われる経験を融合させ、発電所の価値を最大化するプロフェッショナルとして進化し続けます。

＼プロジェクトにかける想い／



未来を支える 太陽光エネルギー

気候変動、エネルギー問題、そして電気代の高騰。そんな中で太陽光発電は、地球を守りながら、安心して暮らせる未来を支える「希望のエネルギー」です。地域の電力をまかなうことも、地球環境を守るためのエネルギー選択肢を届けることもできます。「エネルギーの未来を自分で変えることができる」そんな、やりがいに満ちた仕事です。

プロジェクトストーリー04

Project.04

森林資源を未来の
エネルギーへ。
カーボンニュートラル
への貢献

T.N

ベースロード事業推進部

プロジェクト発足の背景

バイオマス発電事業への取組は、2015年にFIT申請を行い、2016年に認定されたことが第一歩となりました。当時はまだ体制が十分に整っておらず、プロジェクトが順調に進展できるかどうか不透明な状況でしたが、少しずつ社内体制を整え、EPCパートナー様との受注前業務委託を契機として、2017年には実質的にプロジェクトが開始いたしました。当初は自社単独での事業化を目指しましたが、ファイナンスや燃料調達の面で行き詰まり、プロジェクト体制の抜本的な見直しを迫られることとなりました。そして2020年、丸紅クリーンパワー様および大阪ガス様にパートナーとしてご参画いただいたことにより、プロジェクトは大きく前進することができました。

プロジェクト概要

バイオマス発電は、太陽光発電と比べ投資規模、建設期間及び運転・整備に関わる規模は遥かに大規模なプロジェクトとなります。基本的なプロジェクト概要ですが、発電出力は75,000kWとなり国内でも有数な大型発電で、一般家庭での電力供給量に換算すると15万世帯分となります。事業費規模としては、詳細は公表できませんが数百億円にも昇り、またこのプロジェクトに関わった人数は、計画段階では数十名以上、建設期間（約3年間）には延べ数千人以上となり、営業運転後は、業務委託契約会社も含め数十名規模がバイオマス発電設備の運転・整備等に関わることになります。バイオマス発電で使用する木質ペレットは、森林を乱開発して伐採するものではなく、計画的に管理された森林や製材過程で生じる端材など、持続可能な生物資源を由来とする燃料です。そのため、バイオマス発電はカーボンニュートラルな電源とされています。分かりやすく言えば、約15万世帯が使用する電力量に相当するCO₂を削減できる効果があり、社会への貢献度は極めて大きいと考えております。

プロジェクトストーリー04

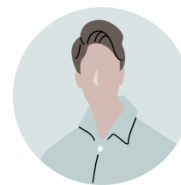
プロジェクト目標

計画時のプラント性能（効率）及び決められた発電量を発生・送電されるかが大きなポイントとなります。発電所は、ボイラ設備、タービン発電機設備、付帯設備など多くの機器で構成されており、これらを効率的に連係させ、全ての機器を不具合無く運転して初めて稼働が可能となります。とは言え、設備トラブルを防ぎながら安定的に運転を継続することは容易ではありません。具体的な目標例としてプラント効率ですが、蒸気タービンの高効率化技術の採用やシステム構成の最適化を取り入れることで、本事業の発電規模としては高水準の目標を設定しました。また、発電設備の故障の少なさや安定的に運転を継続できていることを表す指標として、設備稼働率（計画定期点検期間を除く運転期間）は、一般的な他事例では90%前後ですが、本プロジェクトでは国内実績の豊富なEPCやプラントメーカーを採用することで「90%強」を目標とし高効率、高稼働率による事業採算性を図る計画としております。

プロジェクト成果

目標に掲げたプラント効率は、契約上のプラント性能は達成できたものの、一部に課題が残りました。しかし、それを上回る売電量を確保できたことにより、事業全体としては計画通りの収益を実現しております。また、運転開始から一年が経過した現時点において、設備稼働率100%（一度の停止もせずに連続運転を継続中）を維持し、稼働率の高さが収益性向上に大きく寄与し、立上げの初年度としては極めて順調な稼働状態を維持しています。今後の思いとしては、高い目標を維持できるよう、日常点検・管理を通じて、問題となる危険信号をいち早く察知するとともに、年に一度の定検点検時には日常点検や運転実績で得られる情報からトラブルを未然に防ぐ点検内容や保守計画を反映し、これによりさらなる稼働率の向上と安全運転を図って行きたいと考えております。

プロジェクトにかける思い



想いをつないだ バイオマス発電プロジェクト

私は前職で計画立案から建設・運転を経験してきた一人として、当社プロジェクトの第2フェーズ開始時に参画しました。使用する燃料は異なりますが、類似した発電設備の建設となることから、多くの経験や知見を活かせることができ、社会人人生の集大成として取り組めるものと思って進めてきました。しかし実際には、事業者との関連性がまったく無い新規事業用地での建設の難しさやこれまでに経験したこのない障壁が数多く立ちはだかりました。その度に挫けそうになりながらも、事業開発に際して先輩方が尽力されたFIT申請や建設場所の選定、燃料荷役等の好条件を無駄にできない、エネウィルとしてバイオマス発電所1号機を何としてでも事業化にこぎ着けたいとの想いで業務に取り組んできました。当初の想定よりも期間は掛かりましたが、無事運転開始を迎えたことは、私が関わった6年間の歳月を振り返ると達成の喜びはひとしおであり感慨深いものがありました。

求める人物像

取り巻く事業環境の変化を踏まえ、これまでの「再生エネルギー事業者」という枠を超え、「地域の環境・エネルギー価値の担い手」への変革を目指しています。その実現のために「個」として「たるは」を具備したプロフェッショナルが、「集団」として同じ目的に向かって協働することを目指しており、その考えに賛同いただける方と一緒に働きたいと思っています。

エネウィルの構成員たるは

自律

当事者意識を持って自分で立つことは当たり前、関係者との相対の中で、自分を位置づけること、関係を創ること

利他

他人に全てを委ねることでも、ましてや自己犠牲でもない。他に対してゴールをアラインさせ、そのために汗をかくこと

情熱

熱い思いを常に発出していることではなく、自ら己を動機づけ、行動を起こし、他者の巻き込みをしていくこと

安全

安全は企業活動の基盤であり、すべての職場において、常に自分がこれから取る行動がもたらす結果を予測することで、事故・災害から自らの身を守り、自分の行動が周りの方をも守るにつなげること

お互いのマッチ度と期待値をすり合わせ、最良の選択肢となれるよう尽力します。



※ 通常、ご応募いただいてから内定まで約2~3週間ほどかかります。

※ ただし応募者多数の場合は、面接調整の都合上、日程が延びる可能性があります。何卒ご理解ください。